

No. 129号

OB・Gニュース

二十八年一月六日

発行責任者

社民党がんばれOB・G福島の会

eメール [huruya.michitatsu@orange-plala.or.jp](mailto:huruya.michitatsu@orange-plala.or.jp)

通帳に

暗証番号

書いている

(217年度シルバー川柳より)

### 年寄りには「冷たい政治」とのべるでも今の政治を支持する、その責任は

「貧しいほど独裁求める？英研究チームが発表 世界で調査」という見出しの記事がある。

(9月5日・朝日新聞)

古い記事であるが以下その記事を掲載する。「経済的に不安定な人は、他人の言うことに耳を傾けない独裁的な政治家を支持しがちになる。英国の研究チームが2016年の大統領選を前にした米国の750人を調査。トランプ氏はクリントン氏より『独裁的』とみる

### 新しい年、

### 2018年を祝います



国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)にノーベル平和賞が授与された。そしてカナダ在住のサーロー節子さん(85)が被爆者として初めて受賞演説をし「人類と核兵器は共存できない。私たち被爆者は72年にわたり、核兵器の禁止を待ち望んできた。(条約採択)を核兵器の終わりの始まりにしよう」と訴えた。そして広島松井一実市長は「核保有国が同盟国に核兵器の抑止力を提供

人が多く、貧困率や失業率が高い地域に住んでいる人ほどトランプ氏に投票すると答えた。米国以外でも同じかどうかを確かめるため、69カ国の13万8千人を調べた。失業率が高い地域の人ほど、また自分の人生をコントロールできない人ほど『議会や選挙を気にしなくてもいい強い指導者を好んだ』と報告している。

昨年10月、安倍首相は「日本の国難」に対応するためを旗印にして強行解散・総選挙に踏みきった。そして国民が選択をしたのが「安倍一強体制」の継続であった。安倍晋三総理大臣が「独裁

することによる『核の傘』について、核に守られていると思うのは錯覚だ」と述べ、その有効性を否定しました。このお二人のメッセージを大事にしたい。そして新しい年2018年を平和な国づくりの始まりとしたいものです。

皆様のご健勝を心より祈念いたします。

社民党がんばれOB・G福島の会

会長 杉原 二雄

副会長 河辺 信雄

佐藤 幸夫

事務局長 降矢 通敦

者」であるかどうかは、さておき「独裁体制」を強めていることは確かではないか。いみじくも平成28年5月16日の衆議院予算委員会において「私は立法院の長であります」という発言をしている。そして後日「単なる言い間違い」であり、「国会は自分のコントロール下にあると思っている」という御指摘は当たらないと答えている。しかしその後の国会の場における安倍首相の姿には、発言も含めて「国会を私物化」しているとしか考えられないことが指摘をされている。

さて前に戻りたい。尋ねた家の前には「空き家・売ります」の看板が。そこで近くで立ち話をしていた3人の老女(70代後半だろうか)に「この家の方はどうしました」と尋ねた。彼女たちは「奥さんが亡くなってご主人は子どもものところに行つたようだ」と答え「大変だろうね」と付け加えた。さらに「私たち年寄りは早く死ぬということだね」との言葉が返ってきた。時は参議院選時であった。「皆さんは誰に投票するの」との質問に「やはり自民党だね、安倍さんだね」と。

その皆さんは戦中を体験しただろう。戦後の混乱も経験をしている。そして「高齢社会」にあつて介護や医療に老後の不安は高めている。しかし政治の選択は「安倍さんだね」と答える皆さんに対しその矛盾をよく語り切れない私たちの責任があるとの認識を強めた。この責任を共通化したいものである。

(事務局長・降矢)

## 「株神話」が政権を選択するとしたら!!

「安倍首相の政治姿勢は面白くない。そして原発再稼働も憲法改定も反対だ。『森友・加計問題はまだ終わっていない』、だけど『株』が上がっているね」と言う言葉をよく耳にする。そこで「株価が上がっている」という感覚が政治の選択になるのだとすれば無視はできない。

「経済学」を説く専門家の解説も大事と思うが、市民感覚をもつて政治を問う風潮があるとするとそのレベルで考えることもあつてよいと思う。そこで次の記事を取り上げてみた。

『伊藤忠商事』祝！株価2000円突破』、東京の本社では社員約1000人に無料でワインや食事が振る舞われ、ワイングラスを手にした社員らの楽しい声が響いた。「昨年3月に株価連動型の社員食堂をオープンした日清食品ホールディングス。月末の終値が、前月の平均株価を上回れば『ご褒美デー』として『うな重』などを提供したり、逆に下回れば『お目玉デー』として白い給食着を身につけた役員らが質素な食事を社員に配膳したりする。株価下落の責任を役員、社員ともに感じてもらうおうというわけだ」（毎日新聞11月30日）

### 証券会社の表示板前に立ち止まる高齢者

さらに証券会社の表示版に株価が一斉に掲示される。年金生活者であると思われる数人の高齢者が立ち止まる。そこに報道マンが「上がっていますね」と問う。それに対し満足げな面

持ちで「助かるね、もう少し上がると良いのだが」と答える場面をよく見ることがある。

では、そんなにも多くの国民が株を買い、そして関心をもっているのだろうか。

下の表は欧州・米国・日本の「家計の資産構成」の報告である。2015年度の数字であるが日本の「現金・預金」と米国の「株・投資」の比率がほぼ同じである。つまり日本人がより頼みとする家計は現金、預金であることを示しているが、それも変化をして行くだろう。それが平成23年（2011年）に施行された「確定拠出年金」である。

それは各自が確定した掛金を拠出し、それを資金にして運用収益（株式への投資など）を上げる。そして退職時にその掛け金の総額と運用収益の合計を年金として受け取る。その確定拠出年金には「企業型」と「個人型」とがある。企業型は労使合意のもとで企業が従業員を加入させて掛け金を企業が拠出する。個人型は加入者本人が掛け金を拠出するもので「国民年金基金連合会」が主体となって運営する。さらに「個人型確定拠出年金」の加入者は、自営業者などに限られていたが、平成29年1月から、企業年金実施企業の従業員や公務員、第3号被

|    | 現金・預金 | 株・投資信託 | 保険  | 債権等 |
|----|-------|--------|-----|-----|
| 欧州 | 35%   | 25%    | 32% | 8%  |
| 米国 | 13%   | 47%    | 32% | 8%  |
| 日本 | 52%   | 16%    | 26% | 6%  |

保険者（専業主婦・主夫）が加入できるようになった。今後は公的年金を補填する意味で「運用型の確定拠出年金」の比率は上がっていくことは間違いない。それが「株の運用」などへの投機意識を強め、多くの国民の経済的常識になつていく「アメリカ化」であることを危惧する。

### 利ザヤを求める投機意識が政治を選択する

為政者はこれらの意識を巧みに誘導するだろう。そして「しかし株が上がっているしね」という意識を誘発させるとしたらどうだろう。それだけではない。トランプ大統領は来日時に「世界最高の軍事装備を米国から買うべきだ」と米軍需産業のトップセールをしていった。安倍首相も「日本は防衛装備の多くを米国から購入している。さらに購入することになると思う」と述べた。そして米軍需関連大手4社の株価も上昇基調にある。（毎日新聞12月17日）

さらに日本においても大手の三菱・川崎・沖といった大手に加えて、中堅の軍需企業が有望銘柄として「投機の世界に」続出している。もちろん「株式制度」を否定するものではないが「投機」に傾斜していくことによる「人生の誤り」を幾つも生んできた事実を忘れてはならない。ましてや「投機の利ザヤを求めめる大衆の意識」が軍需産業を支え「時の政治の選択」の尺度になつていくことへの恐ろしさと、それを武器とする為政者の政治性を厳しくとらえなければならぬ。

## 確定申告の時期を前にして

### 「佐川長官・国税内部からも批判」

「森友学園との国有地売却に関する交渉記録について、国会で「破棄した」と答弁した財務省の佐川宣寿前理財局長。7月から国税庁長官として徴税事務のトップに立ち、税務署の職員たちは納税者の反発にさらされている。さらに全国税労働組合は税務署で働く労働者の組織であるが、佐川局長はこの労働組合の団交の席上、「納税者からさまざまご意見が寄せられていることも承知している。特に年明け以降ご苦労をおかけする」との言葉を述べている。

それは年明けに始まる確定申告の受付にあたって、職員が逆風にさらされる可能性を認められた発言だが、森友学園には直接言及せず、陳謝もなかった。毎日新聞は佐川氏にコメントを求めたが、国税庁国税広報聴室が22日「所管行政に関わらない事柄について答える立場にない」という談話を出したのみだった」と報じている。(11月21日)

佐川氏の就任直後から各地の税務署には「書類を廃棄したと言えば許されるのか」「あなたに適正・公平な行政を語る資格があるのか」などといった苦情が寄せられてきた。稗田委員長はこの状況を踏まえ、佐川氏が初めて出席した10月4日の団交で「現場で苦悩する職員へ何らかの言葉を発するべきだ」と迫った。佐川氏は回答を避け、「明るく風通しのよい職場を作

りたい」などと語るのみで、国会と同じく「問答無用」の姿勢を崩さなかった。全国税は10月25日付の機関紙で「職員へ謝る姿勢なし」と批判した。

さて、確定申告では医療費控除があり年間の領収書を添付しなければならない。例えば後期高齢者の医療費窓口負担率は一般が1割、現役並みが3割となっている。1割と3割の医療費の差は大きい。その境界が住民税課税額145万円を1円でも超えれば現役並み所得者と見なされ3割となる。申告者にとっては145万円を超えるか、どうかのぎりぎり数枚の領収書があればとなる。そこに迷いや誘惑があつて不思議ではない。「領収書の合計額が申告と異なりますね。提出以外の領収書はどうになりましたか」と。数日後税務署からの問い合わせがあつたとする。「なくしました(破棄しました)」といつて通用するだろうか。国会での答弁は通用しても、税務署の窓口では通用はしない。「現場で苦悩する職員」という稗田委員長の言葉はそのことを指すのだと思う。

佐川局長のあらためて言葉を聞きたいものである。



## ・白河地区の会・総会を開催・

### 飯村微光さんありがとうございました

後任会長に角田秀夫さん(市職労OB)

がんばれ白河OB・Gの会の2017年度総会は会員21名の参加で「奥久慈大子」で開催された。結成以来、白河地区の高齢者をまとめ、そしてその先頭に立って走りぬいて頂いた飯村会長(92歳)が退任された。社会党、そして社民党の運動の歴史を、身をもって私たちに示された方である。

白河地区の会は、市内12余の、かつての職場の労働運動を担ってきた皆さんの「社民党の応援団」として結集した組織である。その存在は白河地区の社民党の運動の要としてなくてはならないものとなっている。しかし高齢化の進行の中でその運動もきつくなっていることも事実である。

総会は、社民党白河総支部近藤国俊代表の挨拶をうけ、熊木事務局長からの経過報告、そして統一地方選と参議院選に臨む方針を確認した。その後の恒例の「団結会」は部屋に戻っても交流が続いた。今般23歳の青年の参加があつた。その青年を前にして先輩ぶりをおこころとはなく、自分の体験を話す姿に今はなくなりつつあるかつての連帯の姿を見るものがあった。このような白河地区の会の在り様を大事にしたいと思う。

【報告者・降矢事務局長】

# コーヒータイム



【2017年度税制改革】

足しました・引きました

結果は何も変わりませんでした

安倍首相は9月、北朝鮮のミサイル発射を「国難」と称して衆院を解散した。国難と一言で表しているが「国難が何なのか」が全然分らない。本当にミサイルの脅威を感じているなら被弾したら甚大な被害が想定される。物陰に隠れ「伏せをする」などで防げるものではない。それよりも「原発」をどう守るかが問われる。まさに支離滅裂な発言としか言いようがない。

さらに消費税の増額分の使い方を選挙で問うと述べた。しかし次から次へと提案されてきた2018年度の税制改正については、国民を蚊帳の外に置いたままの「チョイだしの改正案」であった。そして「働き方が多様になった時代に合わせ会社員に有利な仕組みに見直す」というキャッチフレーズのもと「誰もが受けられる基礎控除」を10万円増やして48万円にするとうち上げた。基礎控除10万円の増額はまさに「美味しい改定」である。誰しもが「減税」に結び付けたであろう。ところが会社員の「給与所得控除」と年金者の「年金控除」を10万円減額するというのが後出しの改定案である。結果として、会社員や年金受給者の大部分は基本的に控除の増減額が相殺され「税負担は何ら変わらない」というものであることが後でわかった。大方の会社勤めの国民、そして年金生活者は

減税の恩恵は一切受けない。それどころか消費税増をはじめとする増税、新税による負担は増加していく。ごまかされてはいけない。

NHK番組

火野正平

「こころ旅」から

鹿児島吹上浜を出発



「朝ドラ・ひよっこ」を取り上げた記事は9月号をもって「完」としたが、今回「火野正平・こころ旅」の一場面を取り上げたいと思う。この番組はこれと言った名所旧跡を巡るのではなく、どこにでもある家並み、田畑、山や景色、そして地元民との会話を楽しみながら、投稿者の記憶に残る場所に到達する。そこに懐かしさと親しみを持つ企画となっている。

今般紹介したのは「鹿児島県の吹上浜」である。あの大战の末期日本の軍部は大変な作戦を強行した。それは「爆弾を抱え帰還の燃料を持たずに飛び立つ特攻」である。しかも10代の若者の命を奪った。特攻基地と言え「知覧」となるが、その知覧から西へ約15kmの吹上浜に万世(ばんせい)飛行場がつけられていたことを知る人は少ない。そして終戦直前の昭和20年の3月から7月までの約4ヶ月間に、201人の特攻隊員が万世飛行場から沖繩に向けて出撃し、そして帰ることはなかった。

ここにその少年たちのあり日の写真がある。

昭和20年5月26日に写されたものと思われる。その翌日早朝5人は沖繩へ出撃した。その一人が宿舎から父親に1枚のハガキ送っている。その差出日は出撃当日(昭和20年5月27日)の消印と宿舎の住所が川辺郡加世田町飛龍荘内と書かれている。文面も「最後の便りに致します」ではじまり「弟達及隣組の皆様に宜しく、さようなら」としたためられている。



子犬を抱く出撃前の少年たち

火野さん一行のその日は、吹上浜からかつての「知覧」そして「万世」を結び付けて、戦後廃線となった鹿児島交通南薩線跡のサイクリングロードが発点であった。その南薩線に揺られて知覧、万世に向かったであろうあの日の少年たち。その線路を若者の運命を乗せて列車は走った。「こころ旅」の彼らはそれを知っていたかどうかはわからない。今、「万世飛行場の跡地」は吹上浜海浜公園や住宅、農耕地などになっている。忘れてはならない、そして残さなければならぬ記憶がある。そのことを痛感した場面であった。

【寄稿】

